

第 53 回戦没・殉職船員追悼式 観音崎の海に祈る
恒久の平和と海上交通の安全を誓う

第 53 回戦没・殉職船員追悼式には、戦没船員遺族の薄井智子さんと木内由貴子さんが初めて参列した。二人とも自分の身内が、どのような状況で亡くなったのかを知りたくて、日本殉職船員顕彰会に連絡したところ、戦没・殉職船員追悼式を知り、鎮魂のため参列した。薄井さんは大叔父の薄井辰巳さんが一等操舵手として乗船した「能代丸」が、マニラ港外で空爆に遭い沈没した。木内さんは祖父の峯永三夫さんが第 12 郵船丸に機関部として乗船中、サイパン島付近で空襲に遭い亡くなった。

内閣総理大臣追悼の辞

第五十三回戦没・殉職船員追悼式が挙行されるに当たり、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

先の大戦においては、六万人余りの船員の方々が、祖国を思い、家族の行く末を案じながら、尊い命を失われました。戦後も、海難事故や労働災害により二千九百人を超える船員の方々がその職に殉じられています。

今日の平和と繁栄は、海とともに生きた多くの方々の尊い犠牲の上に築かれたものであります。私たちは、そのことを、しっかりと心に刻み続け、決して忘れることはありません。戦没・殉職船員の御霊に対し、ここに改めて、衷心より、哀悼の誠を捧げます。

中東地域をはじめ、未だに争いが絶えることのない世界の中であって、祖国の未来を想い、蒼海に眠る船員の方々の御霊の御前で、恒久の平和と海上交通の安全に全力を尽くして参りますことを、改めてここに固くお誓いいたします。

戦没・殉職船員の方々の御霊の永遠に安らかならんことを改めてお祈り申し上げるとともに、御遺族の皆様の安寧を心から祈念し、追悼の辞といたします。

令和八年 五月十四日

内閣総理大臣 高市早苗

「海員だより」